

鳥取県立公文書館報

第28号
(平成30年度)

鳥取県立公文書館

目 次

公文書館の概要

1 設置の目的	1
2 機能	1
3 組織	1
4 平成30年度予算	1
5 平成30年度事業計画	2
〔 公 文 書 担 当 〕	2
(1) 引継ぎ	
(2) 整理・保存	
(3) 普及事業	
(4) その他	
〔 市 町 村 協 働 担 当 〕	3
(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議	
〔 県 史 編 さ ん 室 〕	3
(1) 新鳥取県史編さん委員会等の運営	
(2) 調査研究	
(3) 資料編の刊行	
(4) 鳥取県史ブックレットの刊行	
(5) 普及事業	

平成29年度事業概要

〔 公 文 書 担 当 〕	
1 特定歴史公文書等の引継ぎ等の状況	4
(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号アにより引き継いだもの	
(2) マイクロフィルムにより複製、保存しているもの	
(3) 刊行物等の行政資料	
(4) 寄贈、寄託資料（鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号ウによるもの等）	
2 整理・保存の状況	6
(1) 簿冊等紙資料の修復	
(2) 写真資料関係の補修及び電子化等	
(3) 複製本の作成	
(4) 簿冊の電子化	
3 利用の状況	6
(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第13条に基づく利用請求の状況	
(2) 刊行物等の行政資料に対する利用申込み状況	
(3) 閲覧室等での一般の利用状況	
(4) 閲覧室等での県職員の利用	
(5) インターネットによる公文書館ウェブサイトの閲覧状況	
4 展示の状況	7
(1) 常設展	
(2) 企画展	
5 県市町村が連携・協力した歴史公文書等の保存	8
(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議	
(2) 歴史公文書等保存条例制定記念シンポジウム	
(3) 巡回展「鳥取大地震、西部地震、中部地震－被災から復興への記録－」	
(4) 公文書館と図書館、博物館との連携	
(5) 歴史公文書等の保存活用に係る市町村との連携事業	
6 その他	9
(1) 鳥取看護大学講義	
(2) 岩美中学校第2学年道徳講演会	
(3) 第8回鳥取赤十字病院災害医療フォーラム講演	
(4) 公文書等資料の保存と管理について講師を派遣	
(5) 鳥取県立公文書館報第27号の発行	

〔 県 史 編 さ ん 室 〕

1 新鳥取県史編さん委員会等の運営	10
(1) 委員名簿		
(2) 会議		
2 各専門部会の活動	11
(1) 考古部会		
(2) 古代中世部会		
(3) 近世部会		
(4) 近代部会		
(5) 現代部会		
(6) 民俗部会		
3 刊行物	12
(1) 資料編		
(2) ブックレット		
(3) クレジットカード利用による刊行物の配送販売		
4 普及事業	13
(1) 講演会		
(2) 県史だよりの発行		
(3) ホームページの更新		

公文書館の概要

1 設置の目的

公文書館は、歴史資料として重要な県等の公文書、その他の記録などを保存し、県民の利用に供するとともに、県政に関する情報を提供し、学術及び文化の発展と開かれた県政を推進することを目的とする。

2 機能

(1) 公文書の引継ぎ、整理及び保存並びに一般利用

鳥取県公文書等の管理に関する条例に基づき、歴史公文書等のうち、特定歴史公文書等として引き継いだものを整理・保存するとともに、一般利用に供する。

(2) 行政資料などの配架

行政資料・統計資料を自由に閲覧できるよう閲覧室に配架する。

(3) 情報の提供

県の施策その他県政に係る歴史的事実に関する調査研究を行い、その成果を企画展などを通じて情報提供する。

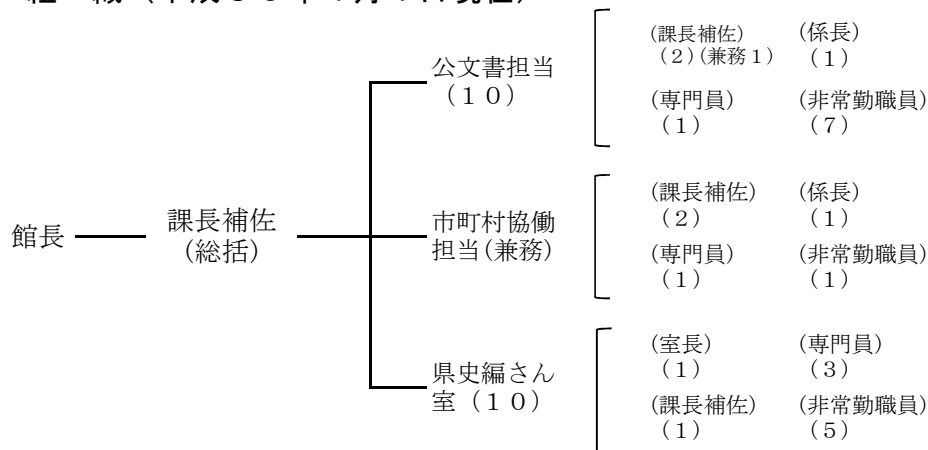
(4) 市町村・県民等との連携・協力

市町村・県民等の保有する歴史資料として重要な資料の保存・利用に関する専門的な情報の提供、技術的な助言等を行う。

(5) 県史編さん

新鳥取県史を編さんし、順次刊行するとともに、ブックレットの刊行、講演会の開催等の普及事業も実施する。

3 組織（平成30年4月1日現在）



4 平成30年度予算

(単位：千円)

事業名	当初予算額
公文書館普及事業	908
歴史資料保存事業	4,611
公文書収集整理事業	7,005
公文書館センター機能強化・充実事業	7,913
公文書館管理運営費	10,796
新鳥取県史編さん事業	41,786
合計	73,019

5 平成30年度事業計画

〔公文書担当〕

(1) 引継ぎ

- ア 実施機関が作成した歴史公文書等について、保存年限満了後速やかに当館へ引き継ぐ。
- イ 引き継がれた簿冊について、早期に利用制限情報に関する審査や公文書管理条例制定前引継文書の再評価を行う。
- ウ 所蔵簿冊の点検を行い簿冊目録の整備を図る。
- エ 書庫の狭あい化に備えて、当面の書庫管理の適正化を図る。

(2) 整理・保存

- ア 簿冊（公文書綴り）等紙資料の修復
劣化・破損の著しい簿冊や寄贈を受けた貴重資料を、専門事業者に委託して脱酸、裏打ち、漉き詰め（リーフキャスト）等で修復する。軽易な修復は職員が行う。
- イ 写真の電子化及び印画紙焼付け
利用度の高いものから順次電子化を行う。原板（ネガ等）は専用フォルダに収納すると共に、電子化されたデータを印画紙焼付け（L版）にして整理・目録化する。
- ウ 複製本の作成
類縁機関からマイクロフィルム撮影等によって収集した資料を複製本化する。
- エ 書庫の管理
IPM(総合的有害生物管理)を利用して管理すると共に、温湿度の管理を徹底する。
※IPMとは、従来のくん蒸剤による書庫及び資料管理に替えて、清掃による虫やカビの回避や、侵入ルートの遮断等予防に重きを置く方法。
- オ 所蔵資料を保存し利活用するための基盤整備
条例施行前引継ぎ文書の評価促進。利用制限事前審査。デジタル資料公開に向けた所蔵資料のデジタル化。

(3) 普及事業

- ア 常設展
展示コーナー（館内及び共通通路）において、県政に関わる資料を展示する。共通通路については、話題性のある資料をもとに、年2回程度の入替を行う。
- イ 企画展
「小学生が体験した鳥取大火」
（会期：平成30年4月16日（月）～5月15日（火））
明治150年特別企画展「明治時代の鳥取一文書と写真が伝えるもの」
（会期：平成30年9月8日（土）～10月23日（火））
※ 会期中に記念講演会を実施する。
「鳥取県ができるまで」
（会期：平成30年9月11日（火）～10月10日（水））

(4) その他

- 鳥取県公文書等の管理に関する条例第26条及び鳥取県立公文書館管理運営要綱第27条に基づき、公文書館の事業概要等を掲載した『鳥取県立公文書館報』第28号を作成し、当館ホームページで公開する。

〔市町村協働担当〕

県市町村公文書等保存活用共同会議

県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用推進について、県及び全市町村で連携を図りながら普及啓発・災害時の連携協力に係る検討・情報交換等を行う。

- (1) 職員の資質向上のための研修
 - ア 歴史公文書等の選別に関する研修会
 - イ 資料保存・修復に関する研修会
 - ウ その他
- (2) 部会による個別課題の検討
- (3) 災害時等の連携・協力体制の構築
- (4) 地域歴史資料所在調査
- (5) 普及啓発の推進
 - ア 明治150年特別企画展
「明治時代の鳥取一文書と写真が伝えるもの」
 - イ 特別企画展記念講演会

〔県史編さん室〕

- (1) 新鳥取県史編さん委員会等の運営
新鳥取県史編さん委員会及び専門部会（考古、近世、現代、民俗）を開催し、編さん事業の方針や実施計画について審議する。
- (2) 調査研究
『鳥取県史』（昭和38～56年度）以後の発見や研究の発展のあった事項、また十分に取り上げられていない事項を調査研究する。
- (3) 資料編の刊行
『新鳥取県史 資料編 近世6 因府歴年大雑集』
『新鳥取県史 資料編 現代1 政治・行政編』
『新鳥取県史 民俗編 民俗2 民具編』 の3巻刊行予定
- (4) 鳥取県史ブックレットの刊行
考古分野・近世分野の2冊刊行予定
- (5) 普及事業
事業の成果を分かり易く提供する。
 - ア 講演会・巡回講座等の開催
 - イ ホームページでの情報発信（県史だより等）

平成29年度事業概要

〔公文書担当〕

1 特定歴史公文書等の引継ぎ等の状況(平成30年3月31日現在)

(1)鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号アにより引き継いだもの

平成29年度は518冊の引継ぎを行い、合計51,349冊となった。

(単位：冊)

区 分		保 存 区 分	平成28年度まで	平成29年度	合 計	
知事部局	本 庁	30年(旧永年)	30,429	42	30,471	
		10年以下(旧有期限)	12,810	334	13,144	
	地方機関	30年(旧永年)	1,653	2	1,655	
		10年以下(旧有期限)	980	10	990	
	小 計		30年(旧永年)	32,082	44	32,126
			10年以下(旧有期限)	13,790	344	14,134
知事部局以外	教育委員会	本庁	30年(旧永年)	2,089	4	2,093
			10年以下(旧有期限)	633	16	649
	県立学校		—	311	54	365
	公安委員会		—	8	0	8
	警察本部	30年(旧永年)	132	0	132	
		10年以下(旧有期限)	9	2	11	
	人事委員会	30年(旧永年)	266	0	266	
		10年以下(旧有期限)	10	3	13	
	監査委員	30年(旧永年)	22	5	27	
		10年以下(旧有期限)	401	34	435	
	労働委員会	30年(旧永年)	431	0	431	
		10年以下(旧有期限)	3	0	3	
	収用委員会		—	2	0	2
	病院事業管理者		—	28	12	40
土地開発公社		—	9	0	9	
小 計		—	4,354	130	4,484	
県議会		30年(旧永年)	605	0	605	
合 計			50,831	518	51,349	

- ① 「鳥取県公文書等の管理に関する条例」(平成24年4月1日施行)に伴い、保存区分が見直され永年が30年となった。また、知事部局をはじめとする15機関が公文書館へ公文書を引き継ぐ機関として位置づけられた。(表には引継ぎのあった機関のみを掲載)
- ② 知事部局本庁の10年・5年保存(旧有期限)文書については、平成23年度までは「鳥取県文書の整理、保管及び保存に関する規程」(平成24年4月1日廃止)に基づき、歴史資料として重要と判断したものを引き継いでいる。知事部局地方機関については、平成7年度から知事部局本庁と同様の方針で引継ぎを実施している。
- ③ その他の機関については、教育委員会本庁(平成8年度から)、人事委員会(平成10年度から)、労働委員会(平成10年度から)、県議会(平成10年度から)、監査委員(平成22年度から)それぞれ知事部局本庁と同様の方針で引継ぎを実施してきた。
- ④ 警察本部の30年(旧永年)については、現行警察制度以前(明治～昭和22年)の文書を平成16年度に引き継いだものである。

(2) マイクロフィルムにより複製、保存しているもの

当館所蔵公文書等の不足分を補充するため、他機関等が所蔵する公文書を複製収集しており、また、当館所蔵の劣化した公文書及び県史編纂収集資料についても複製保存している。

(単位:コマ数)

区 分		平成28年度まで	平成29年度	計
欠 落 公 文 書 の 補 充	県内市町村関係	63,654	0	63,654
	島根県関係	59,381	0	59,381
	福島県移住関係	12,144	0	12,144
	北海道移住関係	18,789	0	18,789
	国立公文書館	477	0	477
	学校調査関係	569,615	0	569,615
	その他	7,640	0	7,640
計	731,700	0	731,700	
劣化公文書		85,355	0	85,355
県史編纂収集資料		108,493	0	108,493
合 計		925,548	0	925,548

(3) 刊行物等の行政資料

(単位:冊)

区 分	平成28年度まで	平成29年度の増減	平成29年度計
行政資料	32,552	826	33,378
統計資料	26,217	231	26,448
合 計	58,769	1,057	59,826

内規による廃棄を実施しているため数が減少

(4) 寄贈、寄託資料（鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号ウによるもの等）

県史編さん関係原文書	362点
寄 贈 資 料	9,972点

※ 県史編纂関係原文書のうち、17点を平成29年度に県立博物館に移管

2 整理・保存の状況

(1) 簿冊等紙資料の修復

劣化・破損の著しい簿冊や寄贈を受けた貴重資料等を脱酸、裏打ち、漉き嵌め（リーフキャスト）等で修復しており、平成29年度は書籍・寄贈資料の修復を実施した。

区 分	平成28年度まで	平成29年度	計
簿 冊	25	0	25冊
図 面 類	606	0	606舗
上記以外の紙資料	10	29	39点

(2) 写真資料等の修復及び電子化

劣化・破損の著しい写真アルバムの修復とともに、マイクロフィルム、その他の写真フィルムの電子化を実施しており、平成29年度は写真アルバムの修復と写真フィルムの電子化を行った。

区 分	平成28年度まで	平成29年度	計
写真アルバムの修復	20	2	22冊
マイクロフィルムの電子化	126,573	0	126,573コマ
写真フィルムの電子化	60,426	3,719	64,145コマ

(3) 複製本の作成

原本保存と利用者の利便性を図るため、原本やマイクロフィルム等を複製本化しており、平成29年度は50冊の複製本を作成した。

区 分	平成28年度まで	平成29年度	計
複製本作成	1,735	50	1,785冊

(4) 簿冊の電子化

センター機能強化・充実事業として、簿冊の電子化を行った。（新規事業）

区 分	平成29年度	計
簿冊の電子化	6,000	6,000コマ

簿冊管理の適正化と書庫スペースの効率的活用を図るため、簿冊排架位置の確定と書庫情報の付与を行った。

3 利用の状況

(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第13条に基づく利用請求の状況

区 分	請求者数 (人)	請求件数 (件)	利用決定区分			不服申立 件数
			全部利用	部分利用	利用制限	
引継公文書	44	214	183	31	0	0
寄贈寄託資料	39	815	815	0	0	0
合 計	83	1,029	998	31	0	0

上記のほかに鳥取県公文書等の管理に関する条例第22条による鳥取県職員の利用請求が268人（684件）あり。

(2) 行政資料等に対する利用状況

区 分	利用者数 (人)	件数 (件)
一般県民	80	341
県職員	26	116

(3) 閲覧室等での一般の利用状況

月別	来館者数	内 訳				
		資料・展示 閲覧のみ	人	相談・案内		
				資料・簿冊閲覧	冊	写しの交付
4 月	377	319	58	10	42	13
5 月	442	380	62	5	11	22
6 月	534	475	59	18	838	58
7 月	446	396	50	10	75	89
8 月	473	413	60	11	120	55
9 月	803	749	54	9	22	37
10 月	437	390	47	9	23	248
11 月	338	292	46	13	34	316
12 月	258	226	32	5	11	93
1 月	312	282	30	7	42	33
2 月	258	219	39	13	43	402
3 月	284	245	39	14	443	602
平成29年度計	4,962	4,386	576	124	1,704	1,968

(4) 閲覧室等での県職員の利用状況

年 度	利用者数 (人)	資料閲覧・貸出 (冊)
平成29年度	383	961

(5) インターネットによる公文書館ウェブサイトの閲覧状況

年 度	利用者数 (庁外) (人)	利用者数 (庁内) (人)	利用者数 (合計) (人)
平成29年度	22,214	7,076	29,290

4 展示の状況

(1) 常設展

鳥取県の誕生から明治期にかけての資料、昭和20年代後半のカラー写真、鳥取市街を撮影した昭和40年頃の写真等を展示した。

(2) 企画展

ア 企画展

テーマ：「公文書館の仕事—歴史資料として重要な公文書等の保存と活用—」

内 容：公文書館の概要や施設の紹介、公文書の収集・整理・保存、公文書の修復、公文書館の普及活動、新しい条例の概要、市町村との連携と協力、災害時の対応等について紹介した。

会 期：平成29年3月14日（火）～5月21日（日）

入館者：793人（4月1日～5月5日）

イ 企画展

テーマ：「鳥取大火の写真展」

内 容：公文書館が所蔵する鳥取大火に関する初公開写真を基に災害と復興の様子を紹介した。

会 期：平成29年4月10日（月）～5月10日（水）

入館者：図書館との共通通路にて実施のため観覧者数は不明

ウ 企画展

テーマ：「県政顧問が見た50年前の鳥取県」

内 容：東京鳥取県人会の主要メンバーから選ばれた県政顧問（5名）が、当時の鳥取県をどう捉え、何を助言しようとしたのかを写真や公文書綴りなどで紹介するとともに、当時撮影された県内各所の写真を利用して、約半世紀前の鳥取県の様子を紹介した。

会 期：平成29年5月23日（火）～6月25日（日）

入館者：732人

エ 企画展

テーマ：「鳥取県ができるまで」

内 容：明治4年の鳥取県の誕生から島根県への併合、再置、再置後の県政のあゆみ、について紹介し、県民の日の趣旨である「県民がふるさとについての理解と関心を深める」ための普及啓発を行った。

会 期：平成29年9月8日（金）～9月21日（木）

入館者：図書館との共通通路にて実施のため観覧者数は不明

5 県市町村が連携・協力した歴史公文書等の保存活用の推進

県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用推進について、県及び全市町村で連携を図りながら普及啓発・災害時の連携協力に係る検討・情報交換等を行う

(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議

ア 第1回共同会議

日時：4月25日

内容：共同会議設立。部会（現用文書部会、評価選別部会）の設置、共同会議の取組内容等について協議

参加人数：45名

イ 第1回研修会・部会

日時：7月26日

内容：研修会：演題：「埼玉県地域史料保存活用連絡協議会の取組と成果について」

講師：埼玉県立文書館 学芸主幹 新井浩文 氏

部会：部会長を選出。市町村の現用文書管理の現状、県の評価選別の取組を報告し今後の進め方等について協議。

参加人数：40名

ウ 第2回研修会・部会

日時：8月30日

研修会：演題：「三豊市文書館における評価選別作業について

－ 三豊市における評価選別・保存活用、電子決裁等の取組等 －」

講師：香川県三豊市文書館 館長 宮田克成 氏

部会：電子決裁、文書管理システムのメリット・デメリット、市町村の歴史公文書等の評価選別基準例作成に向けた考え方等について協議

参加人数：29名

エ 第3回部会

日時：11月14日

部会：「歴史公文書等の評価選別基準の標準例（市町村用）」（案）について協議

参加人数：28名

オ 資料保存・修復研修会

日時：12月19日

講演1 演題：「被災アーカイブズの救助・復旧技術の実際」

講師：国文学研究資料館准教授 青木睦 氏

講演2 演題：「被災した書籍の修復－中原中也『香典帳』ほか－

講師：修復士・修復工房HATA Studio経営 秦博志氏

ワークショップ「被災資料の乾燥・洗浄プログラム体験」

講師：青木睦 氏

参加人数：50名

(2) 歴史公文書等保存条例制定記念シンポジウム

日時：5月23日

- ・特別講演「歴史的に重要な公文書・古文書の保存と利活用」

講師：早川和宏氏（東洋大学法学部教授・弁護士）

概要：講師は、公文書管理等を専門とする研究者で、「県立公文書館在り方検討会議」の座長で

あり、検討会議の概要や新条例の理念、歴史的に重要な資料の保存と利活用の重要性について講演。

- ・鼎談「残された戦時記録が語り出す」

鼎談者 早川和宏氏（同上）、豊見山和美氏（沖縄県公文書館アーキビスト）

喜多村理子氏（鳥取短期大学非常勤講師）

参加人数：105名

(3) 巡回展「鳥取大地震・西部地震・中部地震－被災から復興への記録－」

- ・目的：平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震から1年が経つ機をとらえて、被災の状況と復興の様子を、昭和18年に発生した鳥取大地震、平成12年に発生した鳥取県西部地震の被災と復興の状況と併せて写真パネル、公文書綴り、市町村広報誌などで紹介し、記録・保存の大切さと自然災害に対する理解・備えについて考えていただく機会とする。

- ・日程

会場	展示期間	入館者
公文書館	9月8日（金）～10月25日（水）	1,116人
日野町公民館	9月22日（金）～10月9日（月）	町立施設のため不明
米子市立図書館	9月28日（木）～10月8日（日）	市立施設のため不明
倉吉市立図書館	10月12日（木）～10月24日（火）	市立施設のため不明

- ・ギャラリートーク

日野町公民館 10月3日（火）

倉吉市立図書館 10月14日（土）

- (4) 公文書館と図書館、博物館との連携
災害時等の県立公文書館、図書館、博物館等の市町村との連携・協力実施計画の策定
(9月5日)
- (5) 歴史公文書等の保存活用に係る市町村との連携事業
- ア 災害時文書搬出必要資機材の備蓄
中性紙箱、真空圧縮袋、無水エタノール、運搬用折りたたみコンテナ等
- イ 地域歴史資料所在調査
鳥取県内に残る民間の古文書等歴史資料について、市町村等と協力しながら、所在情報の収集を行い、重要文書や未調査の文書について調査員による現地調査を行った。

6 その他

- (1) 鳥取看護大学講義
日 時：平成28年11月24日(金)、12月1日(金)
内 容：「山陰論」－山陰の近代・県域の変遷－
講 師：伊藤 康(公文書館総括専門員)
受講生：90名
- (2) 岩美中学校第2学年道徳授業
日 時：平成30年2月20日(火)
内 容：「澤田廉三さんの生き方に学ぶ」
講 師：伊藤 康(公文書館総括専門員)
受講生：101名
- (3) 第8回鳥取赤十字病院災害医療フォーラム講演
日 時：平成30年3月24日(土)
内 容：「鳥取大地震一戦時下における震災被害の特徴」
講 師：伊藤 康(公文書館総括専門員)
受講生：約90名
- (4) 公文書等資料の保存と管理について講師を派遣
名 称：平成29年度文書管理主任研修会
目 的：文書審査の要点、簿冊・公印の管理、歴史資料としての公文書の取扱い等について理解を深め、公文書管理条例及びその関連規程に沿った適切な文書事務が行われるようにする。
日 時：平成29年8月21日(月)、24日(木)、31日(木)
場 所：鳥取県庁、西部総合事務所、中部総合事務所
内 容：公文書館の業務／評価選別の実務／不適切な事例／簿冊名の公表・検索のお知らせ／行政刊行物送付のお願い
講 師：森田 佳代(公文書館係長)
参加者：173名
- (5) 鳥取県立公文書館報第27号の発行
公文書等の管理の状況を公表するため、鳥取県立公文書館報第27号を作成し、平成29年6月にホームページで公開した。

〔県史編さん室〕

1 新鳥取県史編さん委員会等の運営

「新鳥取県史編さん事業」の編さん方針等を審議するため、編さん委員会委員を委嘱し、会議を開催した。

(1) 委員名簿

平成29年度 新鳥取県史編さん委員会委員(部会別)

氏名	役職等 (H29.4.1現在)
(考古部会)	
1 高田 健一	鳥取大学地域学部准教授
2 根鈴 智津子	倉吉市教育委員会文化財課課長補佐
3 下高 瑞哉	米子市教育委員会文化課課長補佐
4 中原 斉	県埋蔵文化財センター所長
(古代中世部会)	
1 秋山 伸隆	県立広島大学人間文化学部教授
2 末柄 豊	東京大学史料編纂所准教授
3 倉恒 康一	島根県教育庁文化財課研究員
4 宮崎 肇	早稲田大学非常勤講師
5 石田 敏紀	県立倉吉西高等学校教諭
(近世部会)	
1 池内 敏	名古屋大学大学院人文学研究科教授
2 谷口 啓子	元県立公文書館非常勤職員
3 坂本 敬司	元県史編さん室長
4 山脇 幸人	倉吉市立図書館長
5 伊藤 康晴	鳥取市文化財団主査学芸員
6 来見田 博基	県立博物館主任学芸員
(近代部会)	
1 岸本 覚	鳥取大学地域学部教授
2 田村 達也	元県立公文書館専門員
3 奥村 寧子	鳥取市あおや郷土館学芸員
4 白石 崇人	広島文教女子大学准教授
5 畔上 直樹	上越教育大学准教授
(現代部会)	
1 小山 富見男	鳥取地域史研究会会長
2 喜多村 理子	鳥取短期大学講師
3 佐々木 孝文	鳥取市教育委員会文化財課課長補佐
4 鬼嶋 淳	佐賀大学文化教育学部准教授
5 石田 敏紀	県立倉吉西高等学校教諭
(民俗部会)	
1 坂田 友宏	米子工業高等専門学校名誉教授
2 喜多村 正	島根大学名誉教授
3 喜多村 理子	鳥取短期大学講師
4 靄 理恵子	跡見学園女子大学教授
5 福代 宏	県立博物館主幹学芸員
6 原島 知子	県教育委員会文化課文化財主事
(県)	
1 井上 靖朗	県総務部長
2 森田 靖彦	県教育委員会次長

(2) 会議

平成29年 5月19日：第1回現代部会
5月29日：第1回近世部会
6月 5日：第1回民俗部会
6月 6日：第1回考古部会
6月22日：第1回古代中世部会
7月 2日：第1回近代部会
7月10日：第2回近世部会
7月11日：第1回新鳥取県史編さん委員会
9月30日：第2回現代部会
10月 3日：第3回近世部会
10月16日：第2回考古部会
10月17日：第2回民俗部会
10月28日：第2回近代部会
11月13日：第2回新鳥取県史編さん委員会
平成30年 3月23日：第3回新鳥取県史編さん委員会

2 各専門部会の活動

(1) 考古部会

ア 『資料編 考古3 飛鳥・奈良時代以降』の編集・刊行

イ 古墳測量

・ 航空レーザー測量による大型古墳3基（桝間1号墳、里仁29号墳、古海36号墳）の測量

ウ 遺物再整理

・ 資料編に掲載するため実測した遺物のトレース

(2) 古代中世部会

ア 『資料編 古代中世2 古記録編』刊行記念講演会の開催

イ 収集資料の整理

・ 県史編さん事業で撮影・複製した古代中世資料の目録作成、写真データ整理、公開許諾手続き

(3) 近世部会

ア 『資料編 近世4 因幡上』『資料編 近世5 因幡下』の編集・刊行

イ 資料調査

・ 資料編に収録する近世資料の調査。

県内：鳥取県立博物館、石谷家住宅（智頭町）、個人宅（鳥取市、智頭町など）

(4) 近代部会

- ア 『資料編 近代5 行政2・社会・宗教』『資料編 近代7 産業・教育・文化』の編集・刊行。
- イ 資料調査
- ・ 資料編に収録する近代資料の調査。
県内：鳥取県立公文書館、鳥取県立図書館、大神山神社（米子市）等
県外：福島県歴史資料館（福島市）、郡山市開成館（郡山市）

(5) 現代部会

- ア 資料調査
- ・ 資料編収録候補となる現代史料の調査・撮影、選定シートの作成。
県内：鳥取県立公文書館、鳥取県議会図書室、鳥取県立図書館等
県外：国立公文書館、国立国会図書館（千代田区）、個人宅等
- イ 占領期の鳥取を学ぶ会の開催
- ・ 英文の鳥取軍政部活動報告を解説し占領期の鳥取について学ぶ県民参加の連続講座を鳥取市歴史博物館と共同で開催（7月から月1回）

(6) 民俗部会

- ア 『民俗1 民俗編』刊行記念講演会の開催
- イ 民具調査
- ・ 石がま漁関係資料（鳥取市）、砂丘地農具（北栄町ほか）、淀江傘関係資料（米子市）、磯見漁用具（岩美町）、県内木地師用具、倉吉緋資料（倉吉市福井貞子氏所蔵）等の調査を実施。
- ウ 『民俗2 民具編』の編さん
- ・ 収録する資料の原稿・図版作成。

3 刊行物

(1) 資料編（①はA4判・7,000円、②～⑤はA5判・各5,000円）

- ① 『新鳥取県史 資料編 考古3 飛鳥・奈良時代以降』（H30.3.31刊行、805頁、700部印刷）
- ② 『新鳥取県史 資料編 近世4 因幡上』（H30.3.31刊行、741頁、510部印刷）
- ③ 『新鳥取県史 資料編 近世5 因幡下』（H30.3.31刊行、1,059頁、510部印刷）
- ④ 『新鳥取県史 資料編 近代5 行政2・社会・宗教』（H30.3.31刊行、865頁、470部印刷）
- ⑤ 『新鳥取県史 資料編 近代7 産業・教育・文化』（H30.3.31刊行、759頁、430部印刷）

<販売場所>

公文書館、県庁県民課、八頭庁舎八頭県土整備事務所、中・西部総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局地域振興課

(2) ブックレット（A5判・500円）

第19巻『森と生きた人々―鳥取県の遺跡から―』（H30.3.31刊行、94頁、1,000部印刷）

著者：中原 計（鳥取大学地域学部准教授）

<販売場所>

公文書館、県庁県民課、八頭庁舎八頭県土整備事務所、中・西部総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局地域振興課、県内各書店、鳥取県立博物館、鳥取市歴史博物館

(3) クレジットカード利用による刊行物の配送販売

県外の方、窓口での購入が困難な方には、直接送付も可能で、支払方法は、銀行振込以外に、新たにクレジットカードによる支払いも可能となった。

4 普及事業

(1) 講演会

期日	会 場	講座名（担当者）・テーマ	参加数
7/1～ (土)	鳥取市歴史博物館	連続講座「占領期の鳥取を学ぶ会」	延 300
9/9 (土)	米子市立図書館 多目的研修室	「米軍記録と役場文書から読み解く郷土の戦争」 (喜多村理子部会委員、岩佐武彦調査委員)	60
12/3 (日)	鳥取県立博物館 講 堂	「古記録で読み解く古代中世の鳥取」 (秋山伸隆・末柄豊・倉恒康一・宮崎肇・石田敏紀各部 会委員、米谷均調査委員、岡村吉彦県史編さん室長)	110
1/27 (土)	鳥取市歴史博物館	「鳥取招魂社の成立」 (岸本覚部会委員)	30

(2) 県史だよりの発行

記事内容：歴史・民俗に関する小記事など

発行形態：ホームページ版と紙版（A4判4ページ、県内図書館などへ配布）

発行頻度：月1回

(3) ホームページの更新

記事内容：①巡回講座、ブックレット刊行の案内など（随時更新）

②史料調査のレポートなど（最近の活動から）（随時更新）

③県史だより（月1回更新）

利用案内

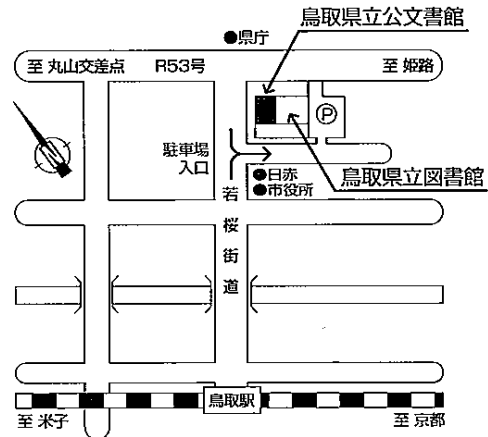
開館時間

●月～金曜日 9:00～17:00

休館日

- 日曜日、土曜日
- 国民の祝日及び振替休日
- 年末年始（12月29日～1月3日）
- 展示コーナーについては、年末年始及び月末に当たる場合を除き、日曜日、土曜日にも入館できます。

案内図



徒歩 鳥取駅から若桜街道を県庁方向へ
徒歩20分

バス 鳥取バスターミナルより
湖山・鳥大線、賀露線など
「県庁日赤前」下車徒歩1分

鳥取県立公文書館報

第28号－平成30年度－

平成30年5月発行

編集・発行 鳥取県立公文書館

〒680-0017 鳥取市尚徳町101番地

電話 (0857)26-8160

ファクシミリ (0857)22-3977

電子メール kobunsho@pref.tottori.lg.jp

http://www.pref.tottori.lg.jp/kobunsho